

令和4年度
事業報告書

社会福祉法人 博愛会
救護施設 天草園

事業報告書

令和4年度

～社会福祉法人博愛会～

令和4年度も、コロナの感染拡大・減少を繰り返し、新型コロナウイルスの予防や対策に追われたコロナウイルス一色の一年であった。当法人が運営する天草園においても、年末に感染が発症し約1ヶ月に渡りクラスターとなり、利用者・職員の約半数近くの49人(48.5%)が感染する。感染により職員も少なくなる中での、ゾーン分け対応等、事前にシュミレーションした通りにはならず、次から次へ感染拡大する状況は想像を絶するもので、職員・利用者共に疲弊し、当たり前ではあるが二度と施設内で感染を発生させてはいけないことを痛感する。

又、役員会等についても、感染防止を最優先し昼間の食事なしでの会議を継続し、出来るだけ短時間での会議に努めた。評議員会については、定時評議員会を計画通り6月に実施。通常の審議事項である決算の承認を行った。理事会については、5月・11月・2月・3月に実施、審議内容については、予算・決算・諸規程の変更等の通常の審議内容を諮った。

内部経理監査については、5月と10月に計画通りに実施。何の指摘事項もなかった。監事監査についても、5月の決算理事会前に計画通りに実施。特に改善を必要とする指摘事項等何もなかった。

決算については、利用者現員減による収入減と、コロナ禍による感染予防対策費の増、物価や電気代の高騰及び職員増に伴う支出増により、前年度より1200万円のマイナスとなる等厳しい決算内容であった。

施設運営について

令和4年度も、コロナの感染拡大・減少を繰り返し、新型コロナウイルスの予防や対策に追われたコロナウイルス一色の一年であった。天草園においても、年末に感染が発症し約1ヶ月に渡りクラスターとなり、利用者・職員の約半数近くの49人(48.5%)が感染する。感染により職員も少なくなる中での、ゾーン分け対応等、事前にシュミレーションした通りにはならず、次から次へ感染拡大する状況は想像を絶するもので、職員・利用者共に疲弊し、当たり前ではあるが二度と施設内で感染を発生させてはいけないことを痛感する。

又、令和5年5月からの第5類の移行を受けて、インフルエンザ同様の取り扱いとなり、社会全体において色々な面が緩和される方向にあるが、医療・福祉においては完全終息しない限り、安心は出来ない状況にある。第5類へ移行されたとしても、発生した場合は今までと同じ対応が必要とされ、今後はワクチン接種も少なくなり、感染した場合の重症化リスクは反対に高くなると考えられるため、今まで以上の予防意識と感染対策が求められる状況にある。

施設運営全般について。収入については通常活動のベースとなる利用者の平均利用人員が75.0人(昨年76.41人・一昨年76.75人)と、久し振りに低い数字となる。昨年度より1.41人の大幅減により約350万円の減となるが、コロナ禍による色々な補助金が130万円程あり、最終的には220万円程の収入源となっている。事務費改定については、コロナ禍が少し落ち着き経済も回復傾向にある事より、約130万円のプラス改定が行われた。

支出については、給与の定期昇給と約1名の人員増により前年度より人件費が620万円程増加、コロナ禍及びクラスターによる保健衛生費と物品で約210万円の増。その他、物価高騰による給食費が約90万円増、又電気代の高騰に伴う水道光熱費が180万円程増等事業費においても500万円程の増となり、最終的に前年度より1000万円程の支出増となり、前年度より単年度収支が1200万円程の大きなマイナスとなっています。

施設整備等については、高額な施設整備や修繕費についての発生はなく、予定外の大きな支出はなかった。しかし、エレベーターの経年劣化による高額なリフォーム工事が必要とされ、次年度にて計画する。前期末支払資金残高については、単年度収支が大きなマイナスであったため、積立金への積立することなく事務費30%内をクリアする。

入退所状況については、入所者11名〔男性8名・女性3名〕、退所者13名〔男性10名(内3名死亡)・女性3名(内1名死亡)〕であった。

入所経路については、精神科病院より入所した利用者が4名、一般病院より入所した利用者が2名、市営住宅より入所した利用者が1名、アパートより入所した利用者が1名、ホームレス状態で入所した利用者が1名、姉の夫宅で生活していたが姉夫が亡くなったことでそこを出なければいけなくなり入所となった利用者が1名、反社会的勢力から追われ住居に戻れないことで入所した利用者が1名で

あった。入所者の主の疾患としては、高尿酸血症、統合失調症、右大腿骨遠位端骨折、関節リウマチ、腰椎ヘルニア、代謝性脳炎、アルツハイマー型認知症、肝機能障害、知的障害等、病名も様々であった。

退所者の退所理由については、入院先の一般病院で死亡した利用者が4名、病状の回復がみられず3ヶ月を越える長期入院により一般病院で退所となった利用者が4名、同じく精神科病院で退所となった利用者が2名、家族の希望と本人の同意により同じ種別の施設へ移動となった利用者が1名、入所して3日目には、これまで生活していた市営住宅に帰ると強く訴え、職員の説得にも応じず、暴言や悪態を繰り返し退所した利用者が1名、利用者や職員に対する暴言、暴力、威圧的言動、セクハラ行為等、規則違反を繰り返すため精神科病院入院後、確保された住居へ移動退所した利用者が1名であった。

1. 利用者サービス関係

「個人の尊厳の尊重・基本的人権を保障し、主体性を尊重した自己実現の支援」をテーマに掲げ、サービスを提供する職員の意識改革を行い、利用者が真に必要とし結果として納得するサービスの提供に努め、利用者主体による利用者個々に応じたQOLの向上に努めた。個別支援計画をより利用者主体で計画することにより、利用者・職員共に目的意識の向上が図られ、利用者主体による生活・サービスの支援が定着、全体としては少しずつではあるが向上傾向にあると思われる。

①利用者支援について

(1)個別支援計画書について

全救協から出されている個別支援計画書を簡略化した様式にカスタマイズし、少しでも直接支援の時間が多く出来るように努めた。簡略化された様式には何も問題なかった。しかし、年末年始にコロナのクラスターが発生。治療と最低の日常生活支援に追われ、通常の時期には策定出来ず、年度末ぎりぎりの策定となった。

(2)真の優しさについて

利用者支援の基本である接遇について、基本的なことではあるがミーティングや会議において常に確認し、直接的な言葉遣いだけでなく、優しい雰囲気作りに努めた。職員全体としては確実に向上していると思われるが、時には個人的な好き嫌いが支援の内容を左右する判断の基準となっていると思われるようなケースもあるため、施設職員としての考え方等の基本的な資質の向上を更に図る必要があると思われる。

(3)コミュニケーションに重点をおいたサービスについて

職員全体としては、コミュニケーションの重要性についての認識は向上していると思われる。しかし、一部では施設全体の流れを優先し、利用者のニーズに十分に対応出来ていないケースもある。優先順位の再確認等を行い、今後更にコミュニケーションの充実を図り、信頼関係の確立に努めて行く必要があると思われる。

(4)「ご意見箱」のサービスへの反映

年間2件のご意見箱への投函あり。コロナ禍の中の制限緩和と職員の接遇に関する要望等の内容で、日々の接遇やコロナ禍の中での生活の在り方等への反映に努めた。

(5)衛生面を中心とした基本的な支援の見直し

利用者関係・居室環境関係・毎日実施する項目・共有関係に分けた年間支援計画書を基に、内容を精査し一部簡略化を行い、他業務とのバランスを図りながら、衛生面を中心とした基本的な支援の向上が図られた。

又、コロナ禍により年間を通して、1日4回の館内消毒と1日6回の換気を徹底して継続し、新型コロナウイルスの感染防止に努めた。

(6)ヒヤリハットの活用による重大な事故や災害の予防

ヒヤリハットの提出件数は年々減少傾向にある。緊急を要するケースについては、毎日のミーティング等で周知し対策を共有し事故防止に努めた。

②栄養・給食関係について

利用者が一番の楽しみである食事を各々の身体状況や嗜好を考慮しながら食事の提供が出来た。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策により、園内外の行事の中止または内容を変更しての実施となった。その為、セレクトメニューの内容や回数の充実を図った。平均年齢も70歳となり、粥食・刻み食が約4割を占めるなど増加傾向にある。利用者の高齢化・重度化に伴う食事形態の変更、有病者に対する食事制限・指導を他職種との協力のもと心掛けた。物価高騰も続いており食材の変更など必要な場合もあったが、大きな影響なく食事提供出来ている。

又、食事中の事故防止策として、とろみ剤の使用や利用者の摂食・嚥下状態に合わせた食形態の検討、食事中の見守りを徹底して継続実施し事故発生防止に努めた。

★行事食について

新年特別食は、ランチプレートで提供し手作りで喜ばれていた。

12月の開園記念日は、内容を変更して実施。食堂にて弁当を提供し喜ばれていた。

★セレクトメニューについて

月2～3回実施。毎月の行事食を考慮しながら、主食・主菜をおりませながら実施できた。9月よりセレクトメニューからお楽しみメニューへ名称を変更し、各回同一メニューを提供し実施回数や内容の充実を図った。

日曜日のラーメン食や、パン食についてもメニュー全体の変更の希望もあり、改善を図った。

★利用者のニーズの把握と対応

・嗜好調査(年1回)、懇談会等での意見・残菜状況をもとに、出来る限り早くメニューに取り込めるようにし、現状把握に努めた。

★衛生管理について

・安全で衛生的かつおいしい食生活を提供するために、調理従事者へ衛生管

理を徹底し、衛生管理に対する認識の向上を図った。従来の水道水の残留塩素測定（1日2回）、手指の消毒、原材料の搬入時温度の計測、洗浄、中心温度計の確認に加え、衛生管理点検表に基づき、調理従事者の健康管理にも十分注意し安全に努めた。

- ・調理従事者の月1回の検便、業務委託による年4回の厨房内害虫駆除も計画通りに実施できた。

★職種間の協同について

- ・他職種間との連携をもとに、それぞれの情報を共有しながら、食事サービスが提供できた。

③保健・衛生関係について

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を継続する業務を行った。8月には第7波により県内でも感染者数が4,000人を超え過去最高を更新する状況の中、職員3名の家庭内感染が発生したが感染者及び濃厚接触者の出勤を停止する対応により施設内への感染の拡がりは防ぐことができた。9月からは全数把握が緩和され市町村別の感染者数公表が終了となり地域の感染把握が難しくなる状況であったが、感染防止の意識徹底を図りながら県指示による職員集中検査を継続して行った。12月に入り5回目となるオミクロン株対応ワクチンの予防接種を開始したが、第8波において職員1名の発生から施設内感染が拡がり12月23日から1月19日のクラスター収束までに利用者42名職員7名の感染者を出す最悪の事態となった（施設内隔離の終了は1月24日）。複数の職員が感染しクラスターが年末年始と重なる中、感染者対応を優先して業務を分担し生活支援員と連携して県や保健所への連絡、指示受け業務を行った。受診先調整により重症化リスクの高い利用者7名の医療機関入院受け入れを対応して頂くことができ、コロナ感染による死亡者を出すことなく経過することができた。

年間を通して嘱託医や身近な施設でのクラスター発生が繰り返されていたため訪問診療は中止を継続し医療機関と連絡をとりながら病状に応じての受診を行った。

市内の地域医療においては、診療体制の縮小により病状不安定な方の入院受け入れ困難な機会などもあり、意識障害や呼吸不全等による救急搬送ケースが5件あった。

(1) 令和4年度受診状況

コロナ感染者及び重複受診者の増加に伴い全体通院数増。

☆延べ通院援助者数

○令和4年度	☞	383名	(月平均31.9名・1日平均1.05名)
○令和3年度	☞	235名	(月平均19.6名・1日平均0.64名)
○令和2年度	☞	172名	(月平均14.4名・1日平均0.47名)
○令和元年度	☞	202名	(月平均16.8名・1日平均0.84名)
○平成30年度	☞	241名	(月平均20.1名・1日平均1.01名)

☆通院状況

□内科・外科	☞	137名	□精神科	☞	71名
□整形外科	☞	15名	□泌尿器科	☞	0名

□耳鼻咽喉科	☞	2名	□眼科	☞	25名
□口腔外科	☞	2名	□人工透析	☞	51名
□歯科	☞	66名	□神経内科	☞	1名
□婦人科	☞	6名	□皮膚科	☞	7名

☆往診状況

□河浦病院(嘱託医)	☞	744名(往診回数0回 代理診察44回)
□天草病院	☞	223名(往診回数0回 状況報告12回)
□酒井病院	☞	294名(往診回数0回 状況報告12回)
□松本眼科	☞	240名(往診回数0回 状況報告12回)

(2) 日常的な健康管理・予防感染症対策等について

★視診の重視と検温・排泄確認の継続について

新型コロナウイルス対応確認表に基づいて検温を行い、体調不良時の受診調整を行った。

★施設内健康チェックについて

体重測定は毎月実施。血液検査は年1~2回実施、内科での再検査で病状を把握し投薬治療、経過観察を行った。

★健康診断について

結核検診は事前に感染対策の確認を行い8月に実施した。

地域検診は自立者を中心に9月に実施した。

☆受検者数	・結核検診	☞	40名
	・地域健診	☞	7名

★予防接種について

新型コロナウイルスワクチンは今年度中にオミクロン株対応ワクチン5回目接種を実施。未接種や接種回数に応じて日程調整を行い全利用者と職員の接種を実施した。インフルエンザ予防接種は11月から12月に実施。肺炎球菌予防接種は対象者1名を実施。

★嘱託医他各医療機関との連携について

嘱託医や市内の医療機関、施設でコロナクラスターが繰り返し確認される状況で訪問診療の中止を継続した。利用者の医療支援が適切に受けられるように定期的な情報提供報告書と受診前連絡等を行った。

★処方内容一覧表綴りの整備等による服薬管理の徹底について

処方変更は都度カルテ管理を行い正確な情報管理に努めた。

★服薬自己管理の推進について

75名が内服治療中、自己管理者は8名で前年度より1名減。入所前に自己管理していた方はできるだけ継続できるように支援を行なった。

★衛生管理について

毎日のトイレ掃除、毎月2回美化清掃・害虫駆除・園内外の清掃、業者委託による年4回の園内消毒等については計画通りに実施した。

★感染症対策について

帰園後のイソジン含嗽・石鹸手洗いの励行、適切なマスクの着用と交換を呼びかけた。食堂内手指消毒にはアルタンノロエース、園内消毒に次亜塩素酸ナトリウム液での拭き取りを継続。

外泊、入所等に際して一定期間の隔離期間を設けて感染予防を徹底、隔離前後のコロナ抗原検査を実施した。

新型コロナウイルス以外のインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症の発生はなかった。

④クラブ活動関係について

利用者の趣味や身障状況及びニーズに応じたサービスを基本とし、趣味の増進や余暇活動の促進を図り、日常生活が豊かで充実したものとなるように各種クラブ活動を計画したものの、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施を取りやめた。集まったの活動を取りやめたことで、居室で過ごす時間が多くなり、テレビ視聴はもとより、個人で取り組む塗り絵やパズル等を楽しんでいる利用者が多くみられた。

⑤リハビリ関係について

専門的リハビリ指導は実施できないが、精神状態及び病状等を考慮しながら、多目的ホールに設置してある運動器具を利用した軽運動、ラジオ体操(1日2回)、外気浴を兼ねた散歩運動、各種当番作業、日常生活動作等を新型コロナウイルス感染防止に注意しながら、できる範囲でリハビリとして取り組み、身体機能の減退防止に努めた。日々の業務の中で適切なリハビリ支援は出来ないものの、医療機関との連携を図りながら、施設として少しでもリハビリにつながるような支援に努めたいと考えている。

⑥作業関係について

作業への取り組みは社会性の確立や機能訓練を含めた手段としてたいへん重要な活動である。しかし、地域性及び厳しい経済状況が要因となり、施設で可能な内職作業等はなく、また高齢化重度化により農作業への取組みも困難な状況にあるため、利用者が可能な範囲でできる日常生活作業(食堂及び多目的ホールの清掃作業・洗濯作業・毎日の園内清掃・隔週の美化清掃・大掃除等)及び地域作業奉仕活動(クリーン作戦・ボランティアクラブ奉仕作業・公共トイレの清掃等)を計画したものの、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染に注意しながら可能な範囲で取り組んだ。高齢化重度化による身体機能の低下、意欲の減退、利用者相互の人間関係等の問題により、参加者は限られたものであるが、今後も日常生活での必要な作業や地域への奉仕を目的とした作業の継続実施に努めたいと考えている。

⑦年間行事関係について

充実した施設での生活が送れるように、利用者のニーズ、障害、年齢、季節

に応じた様々な分野で行事を計画し、生き甲斐対策及び生活の質の向上に努めたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、月1回の懇談会を除くすべて行事の実施を取りやめた。

利用者との意見交換等のある懇談会は3密を避け、ソーシャルディスタンスを保ち、感染対策を行って実施した。その際、その月の誕生者へプレゼントを渡し、たいへん喜ばれた。

利用者からは行事の実施を待ち望むも声も聞かれたが、感染リスク等を説明し行事の取りやめの理解を得た。

⑧防災と安全管理について

利用者の人命尊重を第一に、非常災害時に備えての各種訓練、消防用設備機器等の自主点検及び利用者の防災教育等を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、災害発生を想定した避難訓練等については、徹底した感染防止を図るため職員のための訓練となった。

また、土砂災害に関する避難確保計画書に基づき、梅雨時期前の施設内研修にてその内容の周知を図った。

また、消防計画書、自然災害(風水害、台風、地震等)に対する防災マニュアルについては、変更が生じる項目についてその都度見直しを図り、その周知に努めた。

(1) 避難訓練等について

新型コロナ感染拡大防止のため、職員が行う通報、初期消火、119通報システムの対応等の訓練のみとなった。

(2) 利用者の防災教育について

懇談会等場を利用し、出火場所、災害に応じた避難の方法及び避難場所並びに喫煙場所の徹底等について、定期的に説明し、適切な避難の方法及び防災意識の高揚に努めた。

(3) 消防設備(自主チェックリスト)の点検について

点検検査班による点検を毎月2回実施し、設備の維持・管理に努めた。

(4) 自衛消防組織について

利用者の担当替えに伴う火元責任者、避難誘導責任体制の周知、徹底を図り、災害の未然防止と安全確保に努めた。

(5) 防火管理委員会について

計画(年2回)に基づき実施し、消防計画や自然災害(風水害、台風、地震、土砂災害等)に対する防災マニュアルの変更点等について話し合い、その周知を図った。また、土砂災害に関する避難計画書の作成についても話し合い取りまとめを行った。

(6) 光化学スモッグ・PM_{2.5}について

県本庁からファックス・メールで送信される光化学スモッグ及びPM_{2.5}の注意報には留意し、情報の伝達とその対策に努めた。

⑨地域福祉について

4年度においては、コロナ禍が続いているも with コロナとして色々な社会活動が徐々に再開されていることより、3年度迄中止していた園外交流事業については、利用者不参加で実施する。又、各地区神社の清掃奉仕作業については、コロナ禍2年目同様に男性職員2人で草刈りのみを実施する。

(1) 地域貢献事業

①困窮者を対象とした相談窓口の設置

27年度より、相談窓口のPRパンフレットを玄関に貼り、地域に周知するも、昨年同様に1件の相談もなかった。

②天草園杯グラウンドゴルフ大会の実施。

レプリカ・協賛金を提供。開閉会式等全ての進行を一任し、コロナ感染リスクゼロの状態を実施。

③宮野河内振興会活動への積極的な協力。

4年度は、コロナ禍3年目により一部の地域振興会活動が再開されるも、感染リスク回避のため不参加。

④施設機能の地域開放について

園車については、1件の貸出あり。

⑤奉仕作業活動の実施

新型コロナウイルスの感染防止の為、利用者の参加は控え男性職員のみで、各地区神社等の清掃奉仕作業を行った。

(2) 地域交流事業

①グラウンドゴルフ大会の開催。

地域では日常的に練習や大会が行われていたことより、利用者・職員不参加の下実施。賞品準備以外、開閉会式等全ての進行を地域グラウンドゴルフ愛好会に依頼。2年振りの大会とあって、皆さんにとっても喜んで頂く。

②ボランティア団体の積極的な受入。

新型コロナウイルスにより、全ての受入を中止する。

2. 職員関係

新型コロナウイルスの感染発症・拡大防止、特に職員が持ち込まない事を常にお願ひし努めたが、12月から1月に掛けて発症しクラスター化する。職員も全体の約25%、感染介護に当たった看護師・介護支援員に至っては、約半数が感染する。急激な感染拡大等想像を絶する状況に職員・利用者とも疲弊し、二度と施設内感染及びクラスターを発生させてはいけない事を実感する。クラスターの経験活かし、職員の感染予防に対する自覚と行動の意識を高め、令和5年度も出来る予防を徹底し、感染防止に努めていきたい。

(1) 職員の資質向上策について

外部の研修が実施されない中、県本庁から送られてくる新型コロナ対策案等をもとに、施設内研修を実施し、感染症に対する職員の理解を深めた。

なお、施設内研修の実施状況は以下のとおり

第1回 ⇒ 土砂災害に関する避難計画書について

第2回 ⇒ 社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について

第3回 ⇒ 新型コロナウイルス感染者発生時の対応について

(2) 運営組織体制の強化策について

施設の規律秩序の維持と組織の一体性を欠かさないよう毎朝の職員ミーティングをはじめ、各種会議、委員会等の充実に努めた。また、県社会福祉課をはじめ、各福祉事務所、各医療機関等の関係機関との連携を図りながら、運営組織体制の強化に努めた。

(3) 職員の福利厚生について

福利厚生センター（ソウェルクラブ）加入費用助成継続による慶事祝い品の申請、成人病予防検診並びにインフルエンザの予防接種等に対する費用助成を行い、職員処遇の充実に努めた。

又、コロナ感染クラスター発生に伴い、非常事態での勤務に対する特別手当を支給。

3. 施設整備関係

施設整備については、計画した3件の内1件の実施も出来なかった。原因は、年度途中でエレベーターの大規模リフォーム工事(約1200万円)が必要とされ、その他の整備計画は急を要しないことより、計画していた居室洋室化リフォーム等は実施を見合わせた。又、改築後26年が経過し、前年度までに大きな修繕や高額器具の入替等が殆ど終わっていたことより、新たな高額修繕等の発生もなかった。

(1) 居室(和室)の洋室化リフォーム。未実施。

(2) 一部洗面所の車椅子仕様及び自動水栓への改修。未実施。

(3) 居室及び身障用トイレカーテンの新調。未実施

4. 苦情解決サービスについて

4年度は苦情解決数2件。内容としては、①職員の態度に関する利用者からの苦情、②娯楽等の再開に関する利用者からの苦情。

処理の経過及び解決結果等については、①「半分位の寮母さんが意地悪と上から目線、特に夜勤帯、仕方がないと思うけどはがゆい、施設を替わりたい」との苦情内容が利用者よりある。

苦情申し出者は不明。職員会議の場で内容を報告し周知を図る。また、名前が書

かれていた職員に対して改めて報告し、状況の確認等を行い、今後の改善をお願いする。

②「施設サービスについて。トランプ、将棋、卓球等の開えんを宜しく願います」との苦情内容が利用者よりある。

苦情申し出者へ確認すると、「退屈なんですよ、早く将棋などしたいんです、出来ませんか」等と早期の再開を希望する。

コロナの感染状況を見ながら、行事等の実施を検討することになる旨を繰り返し説明し理解を得る。

5. エコ活動について

昨年度途中、電気代が異常高騰し年間を通してかなりの水道光熱費の増となっている。身近に出来るエコ活動として、継続的に懇談会等で節電・節水を呼び掛け、水道光熱費の抑制に努めた。又、新たな節電システムとして、エコモニターにて一定の使用量を超えると、設定された一部の廊下エアコンが停止し、最高使用量を抑えて基準単価を下げ電気代を抑制するシステムを導入、確実に効果が出ている状況にあります。通院援助車両についても、引き続き出来る限り低燃費車からの使用を徹底し、ガソリン代の抑制に努めた。施設内だけでなく、職員個々の家庭においても積極的なエコ活動への取り組みを奨励し、地球環境の悪化防止に取り組む。